

令和2年度 市民大学前期講座プログラム(案)一覧

協議資料2

No	講座名	趣旨	主な受講対象者 (世代など)	テーマ	講師	提案者	備考欄
①	自転車の創る未来社会	こんにちは自転車は、材質、モーターアシスト構造などの技術発展は日進月歩。一方、電気自動車の開発などエコ対策も進んでいる。エネルギー効率を考えると自転車と自動車の境界は曖昧になるのではないのでしょうか？ 本講座では、移動手段におけるエネルギー効率、エンカル生活による街づくりや地域活性、自転車と健康などを通してエコで健康な未来社会を考えます。	自転車に乗れる人、興味のある人なら年齢を問わない。	1 自転車がつくる近未来社会 自転車、道路、食、風呂・・・自転車乗りの集う場には地域を元気にする力がある？ 2 自転車のエネルギー効率(人間の移動手段の中で最も効率的) 3 電気自転車と電気自動車の境界(バッテリー性能の向上で境界が曖昧に?) 4 自転車とクルマの共生社会(道路設計、自転車通勤・通学) 5 自転車と健康(ストレス解放など) 6 自転車イベント(新潟シティライド、佐渡ロングライド、ツールドつたり、越後長岡チャレンジサイクリング、新潟ヒルクライム・・・) 7 自転車とその文化(開発の歴史、コミックによる自転車の啓発) 8 自転車と街づくり(オランダ、ドイツ、シアトル・・・) 9 日本と世界の自転車関連産業 10 自転車を用いた未来社会像	疋田 智(自転車ツーキニスト) 本川達雄(東京工大名誉教授) 鷲尾 英一郎(自転車活用推進議員連盟 メンバー(2019年5月現在)) スポーツドクター・(NHKチャリダー2019.5.11放送に出演) 新潟市スポーツ振興課 『弱虫ペダル』渡辺航氏、『かもめ☆チャンス』玉井雪雄氏 特定非営利活動法人 自転車活用推	粟生田忠雄	自転車の乗り方(交通マナー)についてあらためて知りたいと思いました。(田中)
②	健康維持とアスリートのための食事管理	健康維持とアスリートにとっての食事管理の重要性を知り、その具体策の立案、実行について学ぶ。	健康維持とスポーツを食事管理という面から見直してみたい方々、例えば主婦、アスリート、学生、中高年の成人など幅広い年齢層を対象	1 食事による健康維持のための方策 2 健康・栄養状態の評価 3 幼児期・少年期の食事に関する注意点 4 成年期の食事に関する注意点 5 高齢期の食事に関する注意点 6 健康維持のためのスポーツの活用 7 アスリート育成のための食事管理(青少年期) 8 アスリート育成のための食事管理(成人期) 9 アスリートのリハビリと食事管理 10 各講座講師・コーディネータ・アスリート代表を交えた討論会	コーディネーター 齋藤 トシ子(新潟医療福祉大学健康栄養学科教授) 西原康行((新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授) コーディネーターと相談の上、テーマの変更、講師の選定を進める。	追手 嶺	
③	ミュージアムから見た新潟(新潟学)	それぞれのミュージアムに課せられたミッションのもと、歴史、美術、産業、個人の偉業・・・など様々な角度から新潟を見つめてきたエキスパート達が語る深い新潟の話。新潟市域外からの視点も取り混ぜ、より高度で豊かな新潟理解を目指します。		1 新潟とアートの相性 2 燕の金属産業と新潟 3 新潟のミュージアムに足りないもの？ 4 信州から見た越後、新潟。 5 みなおし「越後の都・上越」 6 「ベースボール・マガジン」「小泉八雲」「ラガーザ・お玉」・・・そして南魚沼の自然 7 大日本地名辞書を独力編纂した吉田東伍の故郷 8 佐渡と世界をつなぐ版画専門美術館 9 新潟市西蒲区出身！幕末の三筆・巻菱湖を顕彰する 10 企業美術館から新潟市民へのメッセージ	荒井直美 (新潟市美術館 学芸係長) 齋藤優介 (燕市産業史料館 主任学芸員) 山本哲也 (新潟県立歴史博物館 経営企画課課長代理) 笹本正治 (長野県立歴史館 館長) 花岡公貴 (上越市立歴史博物館 副館長/学芸員) 広田かおり (池田記念美術館 学芸員) 渡辺文男 (阿賀野市吉田東伍記念博物館 館長) 未定 (佐渡版画村美術館) 磯島瑛俊 (巻菱湖記念時代館 顧問) 加藤千恵子 (雪梁舎美術館 学芸員)	田中英莉恵	
④	人口減少社会の経済学	人口減少社会において生じる問題を経済学的視点から論じる。	興味のあるかた	1 序論：人口減少社会における課題とは 2 財政赤字の経済学 3 少子高齢化と社会保障 4 人口減と地方の取り組み 5 地方財政は大丈夫か 6 人口減と金融セクター 7 少子化対策への取り組みと課題 8 人口減と雇用 9 地方の公共交通システム 10 総括		長谷川 雪子	「少子高齢化社会について」というテーマで④と⑩の内容がまとめて1講座になっていると聞きやすいのかなと思いました。(土台となる学問 が異なるとは思いますが) (田中委員) 田中委員のコメント「④と⑩を同一の枠組みで」ということでしたら、⑩にこちらの3少子高齢化と社会保障、9地方の公共交通システムあたりを組み合わせるのがしっくりくるでしょうか。今年度の講座が工学系がないという受講者アンケートのコメントを考慮すると、⑩と組み合わせる場合、⑩を多めにする方がよいのかなと考えます。(④が多めだと、内容が暗いということも理由です)(長谷川)

No	講座名	趣旨	主な受講対象者 (世代など)	テーマ	講師	提案者	備考欄
⑤	スポーツの魅力に迫る	2020年はオリンピックの開催される年です。様々な競技スポーツの歴史や魅力、観戦のポイントなどについて、それぞれの専門家からお話しいただければと思います。また、アスリートのみならずそのアスリートを支える舞台の裏側やスポーツ観戦をしたくなる心理など、競技スポーツの魅力について多角的に学びたいと思います。普段スポーツに取り組んでいらっしゃる方々のみならず、競技をする立場・観戦する立場から新たな魅力に気づききっかけになるとよいと思います。	テーマに興味関心のある人ならどなたでも	1 競技スポーツの歴史 2 アスリートの立場から～競技スポーツの魅力～ 3 アスリートを支える立場から①～コーチング学～ 4 アスリートを支える立場から②～ 5 競技スポーツ観戦の心理 6 様々な競技スポーツ①～〇〇の魅力～ 7 様々な競技スポーツ②～〇〇の魅力～ 8 様々な競技スポーツ③～〇〇の魅力～ 9 様々な競技スポーツ④～〇〇の魅力～ 10 総括		角張慶子	
⑥	司法入門	裁判員制度が実施されて、ちょうど10年を過ぎました。最高裁判所の裁判員制度の紹介ホームページには「国民のみなさんが刑事裁判に参加することにより、裁判が身近で分かりやすいものとなり、司法に対する国民のみなさんの信頼の向上につながる」と期待されています。10年経ち、裁判や司法は私たちの身近なものになったでしょうか。裁判や司法の世界について、学んでみたいと思います。		1 私たちの国の司法の仕組み 2 司法の世界で働く人々① 3 司法の世界で働く人々② 4 司法の世界で働く人々③ 5 裁判とはなにか？ 6 裁判員制度とは？ 7 私たちの身近な司法①様々な判例 8 私たちの身近な司法②様々な判例 9 私たちの身近な司法③様々な判例 10 総括		角張慶子	
⑦	認知症とともに	「なりたくない病気」とされる認知症への偏見を払い、支え合う地域社会について学ぶ	親族ら周囲に認知症の人がいる人 認知症の人のケアに携わる専門職 認知症に関心のある学生ら	1 認知症をめぐる最新事情と新潟県の現状 2 認知症の理解と援助 3 認知症のケア技法「ユマニチュード」 4 家族会の歩み 5 若年性認知症の人の思いとケア 6 認知症当事者からの発信（公開講座） 7 認知症カフェと地域共生 8 全国つなぐ共生ネットワーク・RUN伴の取り組み 9 安心して外出できる見守りの街づくり 10 ポジティブに認知症	池内健・新潟大脳研究所生命科学研究センター教授または高橋正子・県高齢福祉保健課政策企画員 杉山孝博・認知症の人と家族の会副代表理事 本田美和子・国立病院機構東京医療センター 高見国生・認知症の人と家族の会前代表理事 永田久美子・認知症介護研究・研修東京センター研究部部長（三条市出身） 藤田和子・日本認知症本人ワーキンググループ代表理事または丹野智文・同代表＋永田久美子・認知症介護研究・研修東京センター研究部部長（三条市出身） 矢吹知之・認知症介護研究・研修仙台センター研究部部長 徳田雄人・NPO法人認知症フレンドシップクラブ理事・東京事務局代表 大牟田市保健福祉部 山口晴保・認知症介護研究・研修東京センター長・群馬大名堂教授	阿曾 晋	
			その他の講師候補	11 オレンジ・ドアと多職種連携 12 在宅での認知症ケア 13 アルツハイマー病創薬の現場	石原哲朗・みはるの社診療所医師 高瀬義昌・たかせクリニック理事長 柳澤勝彦・国立長寿医療研究センター・認知症先進医療開発センター研究部長		
⑧	感染症を考える	コーディネーター 新大呼吸器・感染症内科 菊地 利明 教授 新大細菌学 松本 教授 感染症は古くから現在に至るまで人類にとって最大の脅威の一つである。今も終わらなき戦いが続いている。感染症を正しく理解して適正な対応することは個人にとっても社会にとっても大切なことである。改めて皆で感染症を学びたい。		1 伝染病との戦い—日本人の活躍 2 結核 3 感冒・インフルエンザ 4 エイズ・性感染症 5 腸内細菌・食中毒 6 高齢者肺炎 7 抗菌薬・抗ウイルス薬の正しい使い方 8 予防接種はなぜ必要か 9 癌とウイルス 10 人と微生物の終わらなき戦い		荒川学長	

No	講座名	趣旨	主な受講対象者 (世代など)	テーマ	講師	提案者	備考欄
⑨	地域から世界へ、クリエイティブなモノ造りからの提案	地域活性化、地域創世という言葉が表出している現代社会において、創造性のあるプロジェクトの関わりや、現代社会の産業界を支えてきた事業者を招き、未来の生活環境を見直す。	30代、40代、50代	1 日本産業界の歩み 2 日本をリードしてきた企業の取り組み 3 付加価値の築き方(マーケティング分析) 4 新潟県の行政、商工会の仕掛け 5 地域から世界へ、事業者からの声 6 地域から世界へ、事業者からの声 7 若きクリエイターの挑戦 8 若きクリエイターの挑戦 9 若きクリエイターの挑戦 10 新潟から動き出す未来とは	経済史、産業史 研究者 ソニー、資生堂、デザイン企画室から 経済学部研究者 事例紹介、分析 新潟から発信している事業者 異業種交流による成功事例 女性の目線で築くキッチン用具デザイナー 伝統技術を活かした次世代の提案者 近未来への提案者 経済史、産業史 研究者	橋本	より「新潟ブランド」に絞り込んではいかがでしょうか。新潟三越伊勢丹が2016年から「NIIGATA越品」キャンペーンをスタートさせ、第四北越フィナンシャルグループは19年、地域商社「ブリッジにいがた」を発足させました。県は20年春までに、「新潟の魅力を考える懇談会」で新潟県のブランドイメージを提言する予定です。こうした官民のムーブメントをチャンスと捉え、ビジネスパーソンを受講者のメンターゲートにできるのではないのでしょうか。従来のシニア受講者にとっても、比較的若い世代のクリエイターらを講師に迎えることで、新たな新潟の魅力発見として関心を持ってもらえるのではないかと思います。講師候補を以下ランダムに挙げます。岩佐十良・自遊人編集長、金森穰・Noism芸術監督、石川竜太・フレーム社長、玉川基行・玉川堂社長、山井太・スノーピーク社長、相浦孝行 conomi社長(阿曾委員より)。
⑩	超高齢化社会に向けた支援技術及び生活空間の提案	高齢化社会に向かい、様々な環境変化、社会問題が浮かびあがっている。避けることの出来ない高齢化における身体の感覚変化を理解しつつ、今後の暮らしに備える知識、現在進行中の研究について理解を深める。	60代、70代、80代	1 超高齢化社会とは 2 加齢による感覚変化 3 健康維持するためには 4 ユニバーサルデザインとは？ 5 暮らしやすい住空間1(建築の視点で) 6 暮らしやすい住空間2(建築の視点で) 7 住空間のリノベーション(事例紹介) 8 自動車運転での動作解析 9 高齢者の自動車運転を支える未来 10 身体をサポートする支援技術	福祉工学研究者 医学部、保健学科 研究者 工学部人間支援 研究者 工学部人間支援 研究者 建築家1 建築家2 企業 工学部人間支援 研究者 機械工学・自動運転の研究者 福祉工学研究者	橋本	「少子高齢化社会について」というテーマで④と⑩の内容がまとめて1講座になっていると聞きやすいのかなと思いました。(土台となる学問 が異なるとは思いますが)(田中委員)
⑪	新潟の国際化と多文化共生	訪日外国人の増加や外国人労働者の受け入れ拡大にとまない、新潟でも多くの外国人を目にするようになった。本講座では、新潟の国際化の歴史と現状、課題を多角的に検証することを通じて、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い対等な関係を構築しながら、地域社会の構成員として共に生きる「多文化共生社会」という、これからの新潟のあり方について考える。	国際交流やインバウンド、外国人労働者の受け入れなどに関心のある方々	1 総論:多文化共生社会の形成 2 新潟県の国際化の現状と国際化推進委に向けた政策 3 増加する外国人労働者①(歴史と制度の変遷) 4 増加する外国人労働者②(受け入れ企業による実際の対応) 5 インバウンドの現状と課題 6 国際理解教育とは 7 県内の各種学校における国際理解教育の実践 8 県内外国人からの相談受付・支援 9 県内在住外国人への日本語教育支援 10 シンポジウム「多文化共生社会の実現に向けて」	山脇啓造(明治大学教授) 県庁知事政策局国際課 新潟県国際観光推進課 大津和子(北海道教育大学名誉教授) 新潟県国際理解教育研究会+国際交流ファシリテーター 新潟ヘルプの会 佐々木香織(りてらこや新潟代表) (複数の講師によるシンポジウム)	山田裕史	
⑫	SDGs(持続可能な開発目標)入門	近年、NGOやNPOだけでなく、多くの民間企業や自治体、学校などでもSDGs(持続可能な開発目標)への関心が高まっている。より良い未来をつくるために17の目標と169のターゲットを掲げたSDGsをどう理解すればよいのか。また、どのように職場や学校、そして日常生活に導入できるのか。本講座では、SDGs誕生の背景からその具体的な内容を理解したうえで、SDGs達成に向けた各セクターの取り組みと課題について学ぶ。	企業・経営者、自治体、NGO・NPO、学校関係者など、SDGsの導入に関心のある方々や国際協力や環境、地域活性化、まちづくりに関心のある方々	1 SDGs誕生の背景 2 SDGsを理解するためのワークショップ 3 「貧困の解消」に関する目標 4 「環境の保全」に関する目標 5 SDGsの実施手段 6 7 SDGs達成に向けた各セクターの取り組みと課題: ①日本政府、②民間企業、③自治体、④教育現場、⑤NGO・NPO 8 9 10		山田裕史	